

豊平川流域の都市の水害分類

- **都市水害**: 複合空間水害 (JR札幌駅前, 大通り公園付近)
- **都市型水害**: ライフライン水害 (下流市街地)
- **都市化水害**: 社会インフラの整備遅れ (上, 中流域)

都市で起こる水害は、「都市水害」、「都市型水害」、「都市化水害」の3つに分類されます。

都市水害とは複合空間水害になります。例えば JR 札幌駅前や大通公園では地下鉄の駅あるいは路線が多重に交わっています。地下にはショッピングセンターがあり、たくさんの方が通っています。その周辺にはインテリジェントビルがあり、通りから地下街へ入れるようになっていきます。このような地域で水害が起きると未曾有の被害になる危険性があり、どのような被害が出るのか分からないのです。例えば JR 札幌駅の電力ケーブルが被害を受けなくても、プレーカーが落ちると、こことつながっている色々な施設の電気が駄目になるというわけです。現に 1999 年の福岡の水害では、JR 博多駅のプレーカーが落ちたとたんに福岡空港のプレーカーが落ちました。なぜかというところと空港と JR の駅のラインが同じところに結んであったわけです。

このように都市で起こる災害とは、思わぬところにネットワークでつながっているという意味で被害が出るということです。

また、都市型水害が起きるとライフライン水害といった、都市機能の麻痺が起こるわけです。

都市化災害では、例えば住宅地がどんどん展開していくけれども、そこでの治水施設がなかなか追いつかない。この狭間で水害が非常に激化するわけです。社会インフラ整備の遅れです。特に上・中流域は北海道開発局ではなく北海道庁が管理している。そのようなところで治水の考え方に非常にギャップがあると、大きな災害が発生する危険があるわけです。